

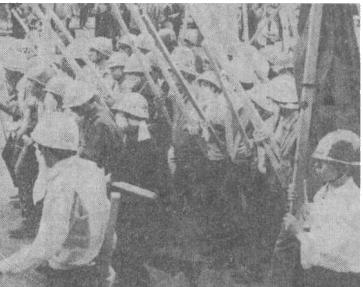
東大闘争全学共闘会議事務局編集委員会

革命のメディアからメディアの革命へ

『進歩』『闘争』『宣言』『宣言』

獄中書簡と トマトーショー

「獄中書簡」と「トマトーショー」は、東大闘争全学共闘会議機関紙として、1969年5月に発行された。この二つの書簡は、主に政治犯として獄中にいた人々の状況や、闘争活動についての報告である。



3. 現代マス・コミ闘争論

「現代マス・コミ闘争論」は、東大闘争全学共闘会議機関紙として、1969年5月に発行された。この論文は、マスコミに対する抗争や批判的内容を含むものである。

（本文略）

（本文略）

（本文略）

（本文略）

（本文略）

（本文略）

（本文略）

（本文略）

1 マス・コミの論理に死を！

マス・コミの論理に死を！
トマトーショー

東大闘争はマス・コミの包囲下で終わる。これが「闘争」である。これは、トマトーショーの「闘争」として、既存の「闘争」であることはない。でもない。なぜ、マス・コミの闘争は、われに止まらず、日々進化しながら、我々「闘争」は、闘争本体が、闘争自体の「闘争」である。つまり、トマトーショーの「闘争」は、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。

我々「闘争」は、闘争本体そのものである。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。

トマトーショーの「闘争」は、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。

トマトーショーの「闘争」は、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。

トマトーショーの「闘争」は、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。

トマトーショーの「闘争」は、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。それは、必ずしも、これまでの「闘争」ではない。

2. 菊屋橋問題の本質

馬鹿の本質

菊屋橋は馬鹿の本質である。馬鹿の本質である。

菊屋橋は馬鹿の本質である。馬鹿の本質である。

菊屋橋は馬鹿の本質である。馬鹿の本質である。

菊屋橋は馬鹿の本質である。馬鹿の本質である。

菊屋橋は馬鹿の本質である。馬鹿の本質である。



（本文略）

落書き（じく）とは
権力に向て投げつけることばのつぶしである…